

平成 30 年度 第 1 回 羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 平成 30 年 7 月 26 日(木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分

場 所： LIC はびきの 教育研究所会議室

出席者：(委員) 上野委員、小澤委員、岸下委員、菅谷委員、平井委員、山下委員、
脇谷委員、渡辺委員

(教育委員会) 高崎教育長、清水教育次長兼生涯学習室長

(事務局) 堀田課長、奥野館長、安東課長補佐、岩佐主幹、江夏主幹

欠席者： 南野委員、瀬戸口委員

傍聴者： 3 名

●校長会選出委員の異動報告

●開会

教育長挨拶

(教育長 公務のため退席)

事務局より議事録の要録を WEB 及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告

●議事

議題 平成 29 年度図書館の事業活動報告について

事務局：(『平成 29 年度図書館業務活動報告書』P.1 により説明)

会長：ご意見はないか。

委員：雑誌スポンサーにたくさん協力いただいているが、どういうところに協力いただいているのか。
スポンサーがつかなくなったらどうするのか。

事務局：(スポンサー名を説明) 職員が協力いただけたところの開拓をしている。雑誌はもともと市費で購入しているもので、スポンサー辞退となった場合は市費購入にもどる。

委員：中学生の利用率が低い。原因はクラブ活動、塾、スマホなど考えられるが、何か働きかけはむずかしいか。中学校に司書がいなくてもいい、そういった努力がいるのでは。

委員：峰塚中学校の平成 29 年度の貸出冊数が平成 28 年度から激減している。図書館として原因はどう考えるか。

事務局：公共図書館から学校図書館への貸出の数字であるが、平成 29 年度は調べ学習の申込がなかったためだと思われる。

委員：河原城中学校の貸出冊数が増えているのはそういうことか。

事務局：大きな調べ学習があったためと考える。申込は学校司書の配置校では司書が、それ以外は先生がしている。

委員：今年はどこ(の中学校)に司書がいるのか。

事務局：はびきの埴生学園です。

委員：調べ学習がないと学校図書館の貸出がのびないのか。

委員：子どもが本を読むには図書館という環境が整っているということ、常時開館しているということ、先生が使ってくれることなどで貸出がのびると思う。

- 委員：学校に司書がいることは子どもたちが本に興味をもつことに大きな違いがあると思う。羽曳野市の子どもの本ばなれは大阪府平均と比べると低い。授業以外に全く本を読まない児童は小学生ではそんなに差はないが、中学生ではかなり差が出ている。スマホやテレビゲームに使う時間が大阪府平均と比べるとかなり高い。情報を得るのに本に向かうことは成長に大事だ。中学校図書館に司書配置を1日も早くしてもらいたいと思う。
- 委員：中学校で先生が授業作りのため放課後に図書館に来られている姿も見た。学校司書会では先生から要請があれば連携で中学校に手助けに行くことにしている。
- 委員：司書は小学校では欠かせない存在になっている。他市からもうらやましがられている。中学校でも司書がいれば読書量が増えるのではないかと思う。中学生は興味の幅が変わってくる。選書について司書配置のあるところはたすかっているのではないか。
- 委員：テレビか新聞で、図書館はサードプレイスー自宅でもない、職場でもない、私が私らしくいられる場所、というフレーズがあった。そういう役割が大きい。中高校などを重点的にというのならば前面に推せる工夫をひとふんばりしてもらえればと思う。
- 委員：中学生になっていきなり本を読みなさいというのは難しいと思う。
- 委員：今の子どもは忙しいので家に帰って本を読むことを子どもに求めるのはとても難しい。朝読や国語の時間などで読む時間の確保や環境の用意が大事。
- 委員：図書館活動の基本方針というのがあるが図書館の役割は多様なものが求められてきている時代だ。基本方針を見直すことを考えてもいいのではないか。図書館をまちづくりの核にするという考え方も出てきている。
- そのための正規の司書がすごく少ないのが心配だ。新しい仕事を展開していくときに正規の司書がいないとできない。正規の司書の定年が続く羽曳野の図書館の将来が心配だ。職員獲得に努力してほしい。今採用すれば優秀な司書が絶対獲得できる。委託になっても労働条件が悪く人を集めるのが難しい時代になっている。
- 事務局：基本方針についてのご意見は検討したい。職員問題については、この場でも毎回ご心配いただいております、また文庫連絡会からも毎年職員体制について要望書にあげていただいている。直近では正規職員の増員と定年問題について1月に人事課と協議した。
- 会長：羽曳が丘や東部の図書館（の運営形態）は委託になるのか。司書資格のある方なのか。
- 事務局：業務委託です。司書資格があること、としている。
- 委員：はびきの埴生学園の図書館はどのようになっているのか。
- 委員：小学校・中学校（相当）と図書館は別で一人ずつ配置されている。

議題 第2次羽曳野市子ども読書活動推進計画進捗状況について

- 事務局：（第2次子ども読書活動推進計画の進捗状況として、2017年度末の数値について報告）
- 委員：推進会議が今は設置されていない状況だが、羽曳野市として推進計画について新たな取組はなされていないのか。以前に図書館協議会という話もあったが、図書館協議会が推進会議の機能をあわせもつ場と考えていいのか。
- 委員：それならば年2回の図書館協議会では足りないように思う。第3次推進計画をつくるということについてはどう考えるか。
- 事務局：現在の計画は第1次計画の理念を踏襲して作成しているが、基本理念は来年度以降も活かしていけると考えている。図書館だけでなく幅広い調整が必要で策定の必要性も含めて今後検討していきたい。

- 委員：必要か必要でないかを検討する場合は図書館協議会になるのか。
- 委員：年2回の協議会では広域な議論を重ねる場、推進会議は焦点が違うと思う。
- 委員：羽曳野市として第3次推進計画は必要ではないか。図書館として考えてほしい。
- 委員：この場では、目標が達成されていないと確認されたので、市として決めてもらうことになるのでは。他の計画策定の協議会は、通常2回のところを4回にしたりしている。策定の年は回数を持ってもらっていいのではないか。
- 委員：この協議会の回数を3回か4回に増やして協議会としての要望として市にお願いできないのか。
- 委員：そういう形にするか、以前と同じようにするかは別の話だと思う。
- 会長：市の考えもあると思うので検討してできる限り早く返事をいただけたらと思う。
- 委員：報告のことだが、利用が減っているのはどう思っているか。小学校のひとりあたりの貸出冊数はすばらしい数字だが、中学校になると落ちてしまう。ある程度落ちるのはわかるが何か手立てはないものか。
- 委員：最初の話のように、司書の、人の力がわかる。
- 事務局：中学生以上が伸びていないことは悩ましく、模索している。
- 委員：登録率の数値が高い。一度登録したら転出してもそのまま、という図書館もあるが。
- 事務局：羽曳野市ではカードの有効期限は5年で、有効期限内の数字です。
- 委員：YA（＝ヤングアダルト）に対するなんらかの働きかけが必要と思う。
- 事務局：職業体験の中学生への図書館利用の宣伝、YAコーナーの定期的入れ替えなど取り組みをやっているが利用増につながっていないのが現実と考えている。
- 委員：図書館が中学校にアピールしてもらい、私たちがおはなしの出前とブックトークをして本を置いてくる、というのは本を手にとっていただくきっかけになるのではないか。
- 委員：図書館の司書にやってもらうのが本来だと思う。中学生以上の本のすすめかたは別で、司書が行って本を置いてくるのがはたらきかけとして強力だと思う。そのためには人が必要という話にもどってくるのだが。中学生向け強化月間みたいなことをやってもらってはどうか。
- 委員：ボランティアでなく司書がはたらきのひとつとして、中学校におはなしの出前やブックトークなどしてもらうのがいいと思う。
- 20年くらい前、中学校にゆとりの時間の講師として行ったことがある。幼稚園に読み聞かせに行くことを目標にしたら、最後はいい反応を返してくれた。お手伝いできることがあれば。
- 委員：配布してもらった年齢別の利用状況グラフではいろいろわかるのでありがたい。
- 会長：協議会として要望することは、司書の充実、子ども読書活動の協議会の兼ね合いを考えていただくことです。

●閉会